No.

Date 26/11/12

Key・Chord・Degree・Function & カデンツ pp.29~

↑なんか5W1Hみたいな見出し。

① Key ← dur — Major — 長調
　　moll — Minor — 短調

おっけいスケールの事とばしてた…

スケールが C Major として:
{Major → ドレミファソラシド
{Minor → ラシドレミファソラ

[問16] 上 → Fm / F
　　下 → B / Bm

※ Majorだし I・IV・V すべてがメジャーコードに、
　Minorだし I・IV・V すべてがマイナーコードに なる.

② Chord
ポップ屋が言うところの「コード」は正確には「コードトライサード」
マザースケールの3度堆積のこと
※、Cとか Fadd9 とが、コードシンボルは3度堆積前提の表記に、
セブンス足したりナインス足したり、さらにテンション足したりしていくと
ひたすら例外的な記述が増える.

[問17] 手前から、
Am　Am7　Am7(9)　Am7(9,11)　Am7(9,11,♭13)

※この手のコードスケールをムリヤリ3度堆積用のシンボルで
書くとほん雑を極めるので、そのうちこのクラシック風な
コードの書き方も変わっていく.

③ Degree
コードをルートの番号で管理すると、そのまま別のキーに流用できる!

[問18] 前から
I → IV → VII / VII♭ → III / IIIm → VI / VIm → II / IIm → V / V → I / I

KOKUYO LOOSE-LEAF ノ-836BT 6 mm ruled×36 lines

④ Function
コードの機能をT,S,Dに分ける。{ T：トニック 安定 / S：サブドミナント どっちつかず / D：ドミナント 不安定

Cスケールに対して、I→T (C)　IV→S (F)　V→D (G7)

※I/IV/V → 完全協和音程

・リハーモナイズ：ダイアトニックコードでの代理
I/IV/Vに似たコードはその似たコードと同じ機能と決めつけて
和音 F C G7



Cスケールの E → ミ・ソ・シ (Ⅲ)
C → ド・ミ・ソ と V → ソ・シ・レ・ファ (I) (G7)
の2種類に代理できる。
何通りか解釈できるときは好きな方を採択していい。
ただし T→D→T / T→S→D→T の原則は忘れない。

[問19] 前から T→D→S→T→(T/D)→(S/D)→S

※ファンクション記号の拡張

ファンクション名	特殊な名称	
T	Sec.D	セカンダリードミナント
S	Re.Ⅱm7	Sec.D/Ex.Dの前にできた Ⅱm7
D	Ex.D	エクステンディッドドミナント
	PC	パッシングコード

c.a. クロマティックアプローチ　sub V 裏コード
Tm トニックマイナー　I or 5th トニックを2回転回⇒ドミナント機能
Sm サブドミナントマイナー
Dm ドミナントマイナー

Dual Function 二重構造→Re.Ⅱm7の中でダイアトニックコードとしても機能
Pivot Chord 基調と転調の両方に共通するコード

⑤ カデンツ：Tで始まりTで終わる1かたまり、

{ T→D→T
{ T→S→D→T
{ T→S→T
の3組.

特に T→S→D→T の流れが基本となる.
(上下2つはSかDの省略ととらえる.)

※若者は特にCスケールのとの T→S→D→T、
つまり C→F→G7→C を「グレイトマザーカデンツ」と
呼んで特別視している.
曰く、「これに近いほどクラシカル、遠いほどモダン」.

[問20] 前から { T → S → D → T (K1)
{ T → T → S → S → D → T (K2)

※同じファンクションが2連続するのは問題ない
……んだと思う. たぶん. もしかしてK0って
「何度目のカデンツ」って意味ではない??

[問21] F / C
K2
すごいれれしてる?

・マザーカデンツの拾い方
I/IV/V およびその上方転回でダイアトニックソートをすべてカバーできる
⇒白鍵だけでできている曲は全てC/F/Gで伴奏できる!

・リハーモナイズ：前夜 …… あるいは「音程」の歴史.

[モノフォニー] 3c.「グレゴリオ聖歌」…単声

[ポリフォニー] ① 9c.「平行オルガヌム」…4から5で平行

② 16c.モードで用いた対位法.

③ 18c初頭「声部形和声」dur/mollに集約される副性

[ホモフォニー] 18c末「伴奏形和声」2声以上が独立してメロディ

ホモフォニーとなったことで、メロディとコードが分離

リハーモナイズ/リメロダイズが可能に

[問22] メロディは同じでコードを変える→[リハーモナイズ]

コードは同じでメロディを変える→[リメロダイズ]

再強調→コーダルミュージックは「コード」「メロディ」がセットになっている.

[問23]

